

検査の「診療報酬」突然大幅引き下げ

新型コロナウイルス感染症が疑われる患者に、医療機関がPCR検査や抗原検査をするときに支払われる費用（診療報酬）が昨年末に突然、大幅に引き下げられました。とりわけ大きな打撃を受けたのは第6波に向けて、体制づくりを急いできた診療所など規模の小さな医療機関です。見直しを求める切実な声があがっています。

（西口友紀恵）

「通常、診療報酬の改定は4月1日です。今回は12月の中旬に引き下げの話を知り、大みそかからの実施でした。あまりに唐突で、あせんとしました。そう話すのは神奈川県厚木市の南毛利内科院長の内山順造さん。コロナ疑いの患者から採取した検体の分析を検査会社に委託しています。

これまでは検査料として診療報酬1人あたり1万8000円を受け取り、検査会社に1万4000円を支払っていました。厚生労働省は診療報酬を3月末まで

は1万3500円に下げ、4月からは7000円としました。（表）

これを受け、検査会社は内山さんに、委託料を3月末までは1万1500円、4月からは6000円に下げると伝えてきました。手元に残るのはこれまでの半分の2000円。4月からは1000円です。

持続可能な体制を

発熱外来に取り組み内山さんは、第6波に備えて昨秋、診療所の外に暖をとりながら安全にPCR検査が

PCRやるほど赤字



検体を採取する井上 義佐院長（提供写真）

内山順造院長

できるブースを増設。オミクロン株の急拡大で連日、検査や診療に追われていま

「感染のリスクを背負って検体をとる手袋、検査に必要な手袋、マスク、消毒液といった物品代などを

考える赤字です。園は検査の強化こそ必要なのに時期に、私たちの身が細るようなり方はやめ、持続可能な体制づくりを行ってほしい」と強調します。

大阪府守口市の北原病院院長、井上美佐さんは12月

医療現場から怒りの声

検査項目	引き下げ前の診療報酬	引き下げ後の診療報酬
PCR検査(委託)	1万8000円	7000円(注)
PCR検査(委託以外)	1万3500円	
抗原検査(定性)		3000円
抗原検査(定量)	6000円	5600円

（注）PCR検査（委託）は経過措置として3月末まで1万3500円、4月から7000円。その他の検査は12月31日から引き下げられた

中旬、「このままでは赤字になる」と慌てて委託先の検査会社と交渉。検査キット代を含めて1人あたり1万4400円だった支払いが1万2900円に減額されましたが、医院の受け取り分は6000円。「4月からの支払いは未定ですが受け取り分が、さらに少なくなる可能性がある」と危くします。同医院では、看護師も検体採取の補助に入り、月約2万円の危険手当を出しています。

「検査はやるほど赤字。防御に努めても感染の危険性が高い検査です。その技術料やリスクをきちんと評価すれば、今回のようなむちゃな引き下げにはならないはず」と指摘します。

撤退を考へる声も

自前でPCR検査の機器を買い、検査をしている医療機関（委託以外）は、診療報酬が大みそかからいきなり半分の7000円に引き下げられました。

井上さんが話を聞いた診療所の場合、1人分の試薬5000円、前置置で必要な薬9000円と、自前で用いる試薬だけで6520円。ほかに機器のメンテナンス料が月2万円かかります。「7000円では明らかに足が出るので、大変困っている」と院長。自前で検査をしている診療所の間では、検査からの撤退を考へる声も出ています。

25日の衆議院予算委員会

で日本共産党の宮本徹議員がこの問題で政府をたどしました。井上さんは「厚田文雄首相は、検査の診療報酬を下げる代わりにほかを拡充したといいましたが、具体的な中身は何一つなかった。今回の引き下げは到底納得できません」と話します。